

Ⅲ. 調査報告

(1) 個人のスポーツボランティア活動に関する実態調査

主な調査結果

成人の過去1年間のスポーツボランティア実施率は6～8%で20年間横ばい

成人の過去1年間のスポーツボランティア実施率は、2014年調査で7.7%であった。1994年から経年で比較すると、6～8%でほぼ横ばいとなっている。年代別に見ると、40歳代が13.6%と最も高く、この傾向は過去から変わっていない。一方、今後の実施希望を見ると、20歳代が18.1%で最も高い結果を示した。【図表1-3、図表1-4】

10代の過去1年間のスポーツボランティア実施率は12～13%で推移

10代の過去1年間のスポーツボランティア実施率は、2013年調査で12.8%であった。2005年から経年で比較すると、12～13%でほぼ横ばいとなっている。学校期別に見ると、高校期が17.4%と最も高い。一方、今後の実施希望を見ると、中学校期が42.3%と最も高い結果を示した。【図表1-6、図表1-7】

成人のスポーツボランティアの主な活動は「地域スポーツイベントの運営」「団体・クラブの運営」「スポーツ指導」

成人のスポーツボランティア活動を、『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的スポーツイベント』に分けて見たところ、『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」の実施者が51.4%で最も多かった。このほか、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」(32.3%)、『日常的な活動』の「スポーツの指導」(22.3%)の実施率が高く、スポーツボランティアの多くは、地域の、日常的な活動であることが分かった。【図表1-10】

スポーツボランティアと自覚せずに活動している「無自覚スポーツボランティア」の存在

過去1年間にスポーツにおけるボランティア活動をしなかった、と回答した者の中にも、スポーツボランティア活動を行った者がいる。こうした「無自覚スポーツボランティア」の実施率は、2014年調査では16.3%であり、スポーツボランティア実施者の倍以上に上る。

「無自覚スポーツボランティア」の活動で多いのは「行事の準備や片付け、事務作業」「練習や大会等で送迎」などであった。地域におけるスポーツ活動は、自らをスポーツボランティアとは認識せずに活動している多くの人々にも支えられている。【図表1-5、図表1-16】

スポーツボランティア実施者の8割強がスポーツ以外のボランティア活動も実施

スポーツボランティア実施者の83.3%が、スポーツ以外のボランティア活動も行ってた。実施率が高い主な活動は、「子供を対象とした活動」「まちづくりのための活動」「安全な生活のための活動」「健康や医療サービスに関係した活動」などであった。【図表1-22、図表1-23】

スポーツボランティアをする上での課題は「時間不足」「情報不足」「金銭的負担」

スポーツボランティアを実施する(始める)上での課題については、「活動のための時間が取れない」「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」「金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)」が上位に挙げられた。スポーツボランティア実施者で最も多いのは「金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)」(13.2%)であったが、無自覚実施者と非実施者では、「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」がそれぞれ14.5%、28.4%と最も多かった。【図表1-20】

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、個人のスポーツボランティアの活動状況を明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動の活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

【調査 1】成人/10代のスポーツライフに関する調査(二次分析)

(1) 調査(分析)方法

個人のスポーツボランティア活動状況の経年把握が可能である、以下の二つの調査について二次分析を行った。

1) 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」

(対象調査年:1994年、1998年、2000年、2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年)

2) 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」

(対象調査年:2005年、2009年、2011年、2013年)

(2) 対象データについて

- 1) 全国の市区町村に在住する満20歳以上の男女
- 2) 全国の市区町村に在住する10～19歳の男女

(3) 調査(分析)内容

- ・スポーツボランティア活動の実施の有無
- ・今後の実施希望

(4) 調査(分析)期間

2014年2月2日～2月10日

【調査 2】個人のスポーツボランティア活動に関する実態調査

調査 1 の「成人／10 代のスポーツライフに関する調査」の二次分析では、個人のスポーツボランティア活動状況の経年把握は可能であるが、サンプル数が少なく、詳細な分析に耐えられないため、以下のとおりインターネット調査を実施した。

(1) 調査方法

インターネット調査

(2) 予備調査対象者数

全国の 20 歳以上の男女 61,669 人

(3) 本調査対象

予備調査の後、スポーツボランティアの実施状況に基づき以下の 3 群に分け、性別・年代別でサンプル数の偏りがないようにサンプリングを行った(図表 1-1)。

①実施者:3,000 サンプル

過去 1 年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動を行ったことが「ある」と回答した者。

②無自覚実施者:3,000 サンプル

過去 1 年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動は行ったことは「ない」と回答するが、地域のスポーツイベントやスポーツ行事、自身や子供が所属するスポーツ団体やクラブなどでボランティア活動を実施したことが「ある」と回答した者。

③非実施者:3,000 サンプル

過去 1 年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動は行ったことは「ない」と回答し、地域のスポーツイベントやスポーツ行事、自身や子供が所属するスポーツ団体やクラブなどでもボランティア活動を実施したことが「ない」と回答した者。

図表 1-1 本調査のサンプル数内訳 (人)

	実施者		無自覚実施者		非実施者	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20歳代	300	300	300	300	300	300
30歳代	300	300	300	300	300	300
40歳代	300	300	300	300	300	300
50歳代	300	300	300	300	300	300
60歳以上	300	300	300	300	300	300
小計	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
合計	3,000		3,000		3,000	

(4) 調査期間 2014 年 3 月 20 日～2014 年 3 月 27 日

(5) 調査内容

① スポーツボランティア活動の実施の有無

② 今後の実施希望、実施希望内容

<対象:上記①の非実施者>

③ 地域のスポーツイベントやスポーツ行事でのボランティア活動の実施の有無

④ 所属クラブ・スポーツ団体でのボランティア活動の実施の有無

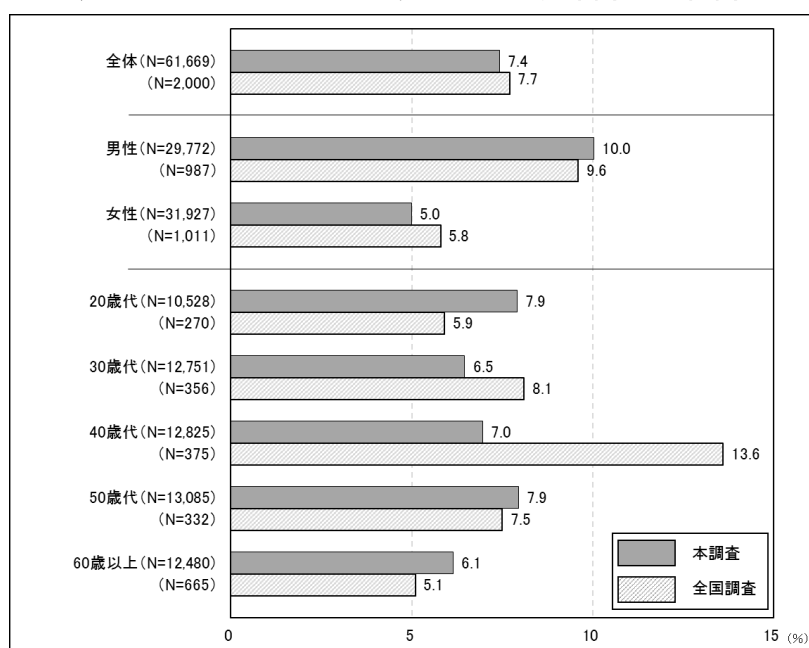
<対象:上記①③④のいずれかの実施者>

- ・スポーツボランティアの実施状況(実施内容、実施頻度、経験年数、活動の報酬、きっかけ)
- ・スポーツボランティアを実施する(始める)際の問題・課題
- ・スポーツ以外のボランティア活動の実施の有無
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会でのボランティア参加意向

(6) 回答者の特徴

過去1年間のスポーツボランティア実施率について、インターネット調査による本調査(以下、本調査)と、当財団の質問紙による全国調査「スポーツライフに関する調査」2014(以下、全国調査)の回答者全体のスポーツボランティアの実施率を比較したところ、本調査で7.4%、全国調査で7.7%と、ほぼ同じ割合を示した(図表1-2)。性別も、ボランティア実施率と同様に全国調査とほぼ同様の割合を示したが、年代別では、20歳代において全国調査より2.0ポイント高く、40歳代においては6.6ポイント低い結果となった。

図表1-2 スポーツボランティア実施率の比較(本調査/全国調査)



(7) その他

本調査報告は、笹川スポーツ財団が実施したインターネット調査「スポーツボランティアに関する実態調査」の結果から引用、作成したものである。

2. 調査結果(調査 1:成人/10代のスポーツライフに関する調査の二次分析)

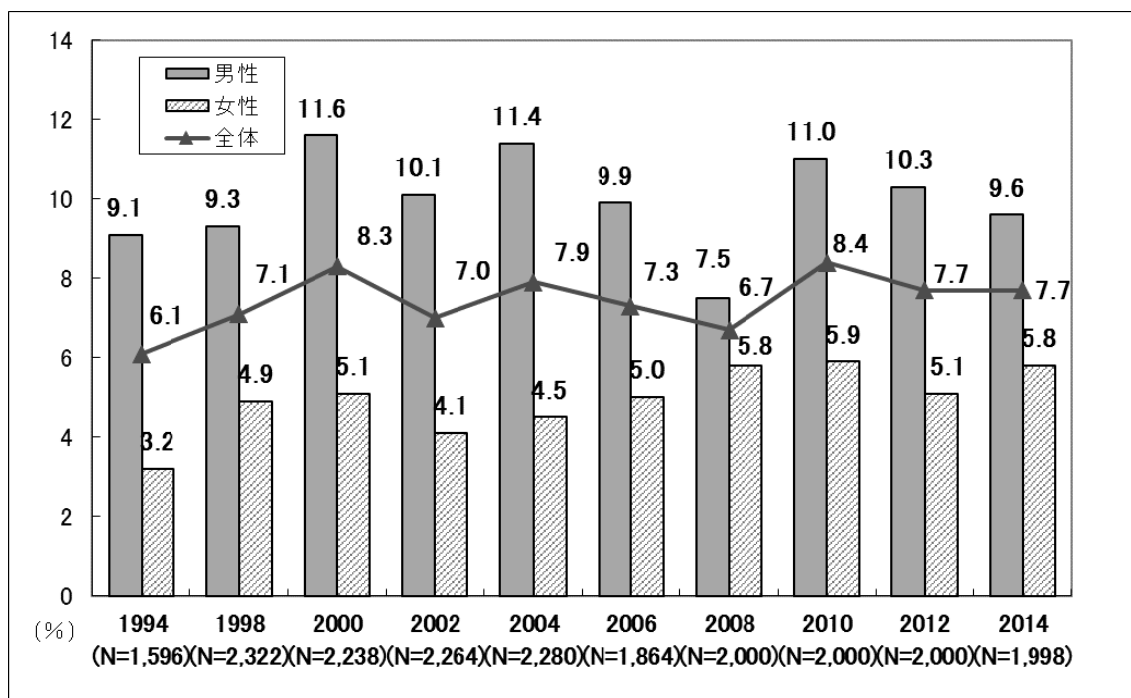
2.1 成人のスポーツボランティアの実施状況

(1) 成人のスポーツボランティア実施率の年次推移

成人における過去1年間のスポーツボランティア実施率を見ると、「ある」と回答した者は、最新の2014年調査で全体の7.7%で、前回の2012年と同じ値であった(図表1-3)。

1994年からの経年で見ると、2010年に8.4%と最高値となったが、ほぼ横ばいの状況が続いている。

図表 1-3 成人のスポーツボランティア実施率の年次推移



笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(1994～2014)より作成

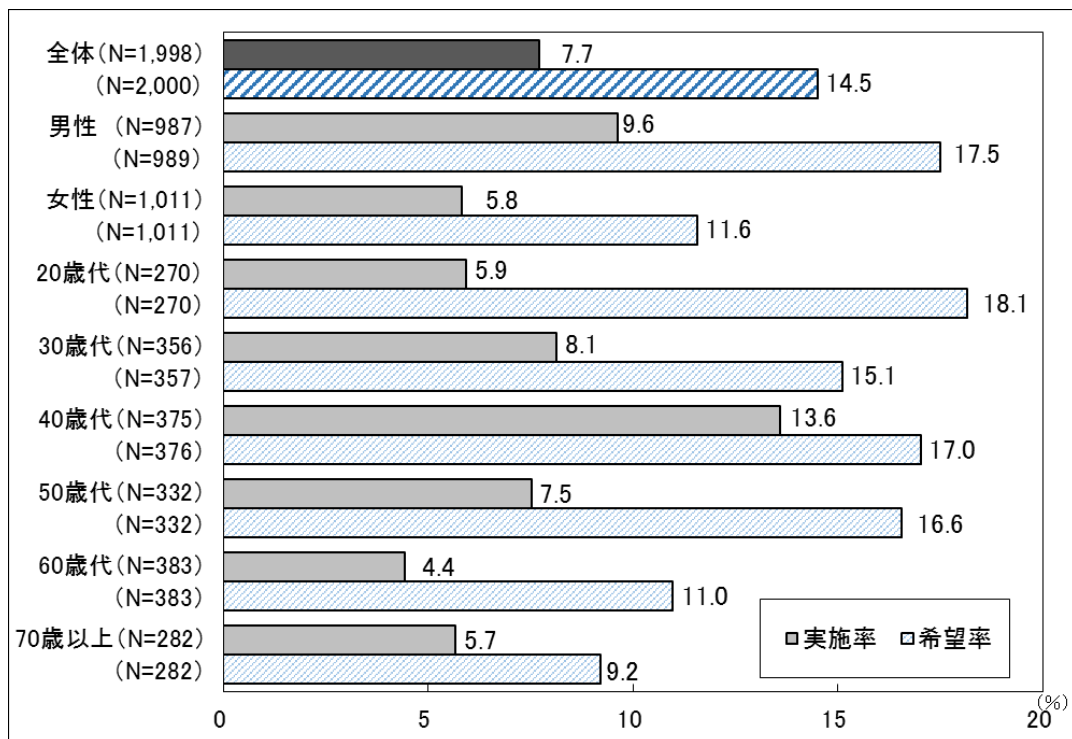
(2) 成人のスポーツボランティア実施率及び実施希望率

2014年調査におけるスポーツボランティア実施率と実施希望率を性別、年代別に見たのが図表1-4である。実施率を性別に見ると男性が9.6%、女性が5.8%で、男性の実施率が女性より高く、その傾向は過去の調査(図表1-3)と同様であった。年代別に見ると、20歳代5.9%、30歳代8.1%、40歳代13.6%、50歳代7.5%、60歳代4.4%、70歳以上5.7%と、40歳代の実施率が高いが、この傾向も過去の調査と同様である。

さらに、今後のスポーツボランティアの実施希望を尋ねたところ、「行いたい」と回答した者の割合(実施希望率)は、14.5%('ぜひ行いたい'2.7%+'できれば行いたい'11.9%)で、2012年調査と比較して0.3ポイント減少した。性別に見ると、実施希望率は男性17.5%、女性11.6%であり、男性の割合の方が高い。実施率と比較すると、男性は7.9ポイント、女性は5.8ポイント実施希望率が上回っていた。

年代別に見ると、実施希望率は20歳代18.1%、30歳代15.1%、40歳代17.0%、50歳代16.6%、60歳代11.0%、70歳以上9.2%であった。潜在需要(実施希望率-実施率)の割合が最も高いのは、20歳代の12.2ポイント、次いで50歳代の9.1ポイントであった。

図表 1-4 スポーツボランティア実施率及び実施希望率(全体・性別・年代別)



笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014より作成

(3) 成人の無自覚スポーツボランティアの割合

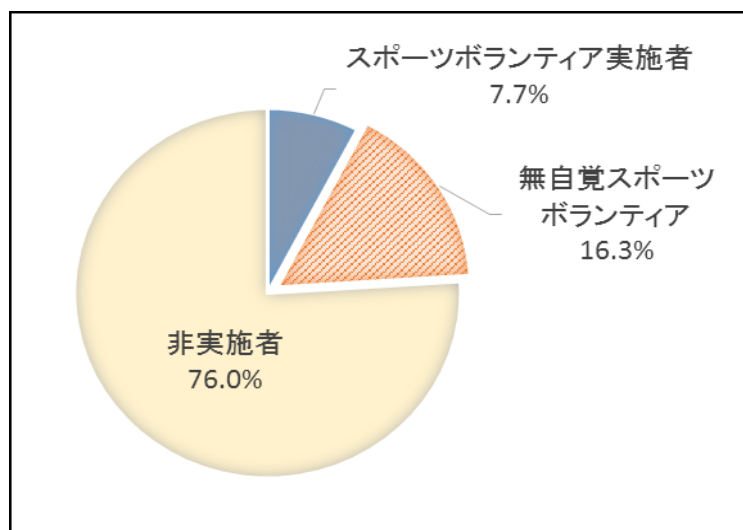
2010年調査から、スポーツボランティアの実施の有無を尋ねるほか、全員を対象にスポーツボランティアに類する活動を具体的に示し、それぞれの実施の有無を尋ねている。類する活動とは、大きく「地域のスポーツイベントやスポーツ行事に関する活動」と「所属するスポーツ団体やクラブ等での活動(自身や自身の子供のためだけの活動を除く)」であり、会場の準備や撤収、飲料や食事の準備、練習や大会等での送迎、指導者や審判の補助などが含まれる。

その結果、スポーツボランティアを実施していないと回答した者のうち、これらの活動について一つ以上の項目で実施したことが「ある」と回答した者は、全体の16.3%であった(図表1-5)。これらの者は、本来スポーツボランティアに位置づけられるが、自身ではスポーツボランティアの認識がない状況である。このようにスポーツボランティア活動を実施していると自覚していない者であることから「無自覚スポーツボランティア」とした。

無自覚スポーツボランティアを性別・年代別で見ると、性別では、男性が17.4%、女性が15.0%と男性の割合が高く、年代別では、40歳代が24.7%と最も高く、ついで、30歳代19.3%、50歳代18.1%、60歳代12.8%と続く。

我が国におけるスポーツ活動に関わる現場は、スポーツボランティア実施者はもとより、多くの「無自覚スポーツボランティア」に支えられていると言える。「無自覚スポーツボランティア」の実施率が高い「所属するスポーツ団体やクラブ等での活動」は、自身や自身の子供が所属する団体を辞めると同時に、活動も終了することが考えられるため、活動を継続させていく仕組みづくりが課題である。

図表 1-5 スポーツボランティアの割合



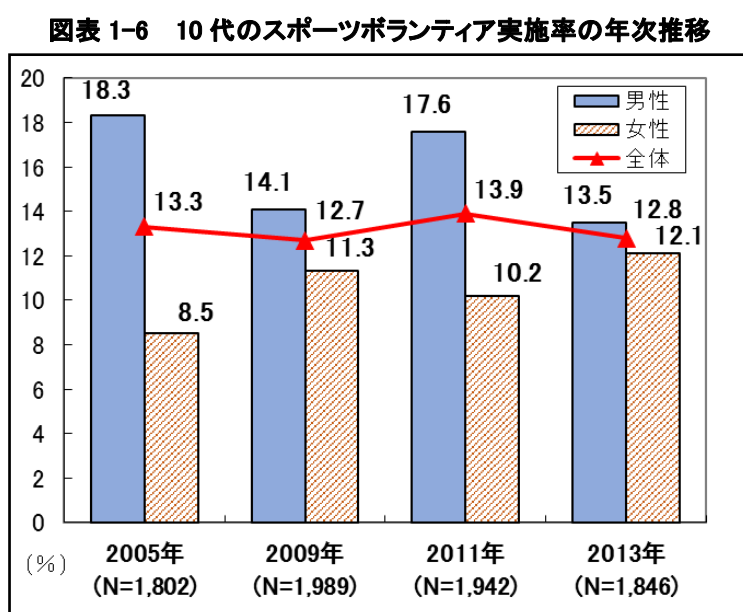
笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014より作成

2. 2 10代のスポーツボランティアの実施状況

(1) 10代のスポーツボランティア実施率の年次推移実施率及び実施希望率

10代での過去1年間における運動・スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツ活動を支えるボランティア活動(スポーツボランティア)の実施率を見ると、2013年の調査では「ある」と回答した者は12.8%であった。(図表1-6)。過去8年間の推移を見ると、2005年13.3%、2009年12.7%、2011年13.9%と13%前後で推移しており、大きな変化は見られなかった。

実施率を性別に見ると、男子が13.5%、女子が12.1%と男子の実施率が女子より高いが、2011年調査では、男子(17.6%)と女子(10.2%)の差が7.4ポイントあったのが、今回調査では1.4ポイントの差に縮小していることが分かった。



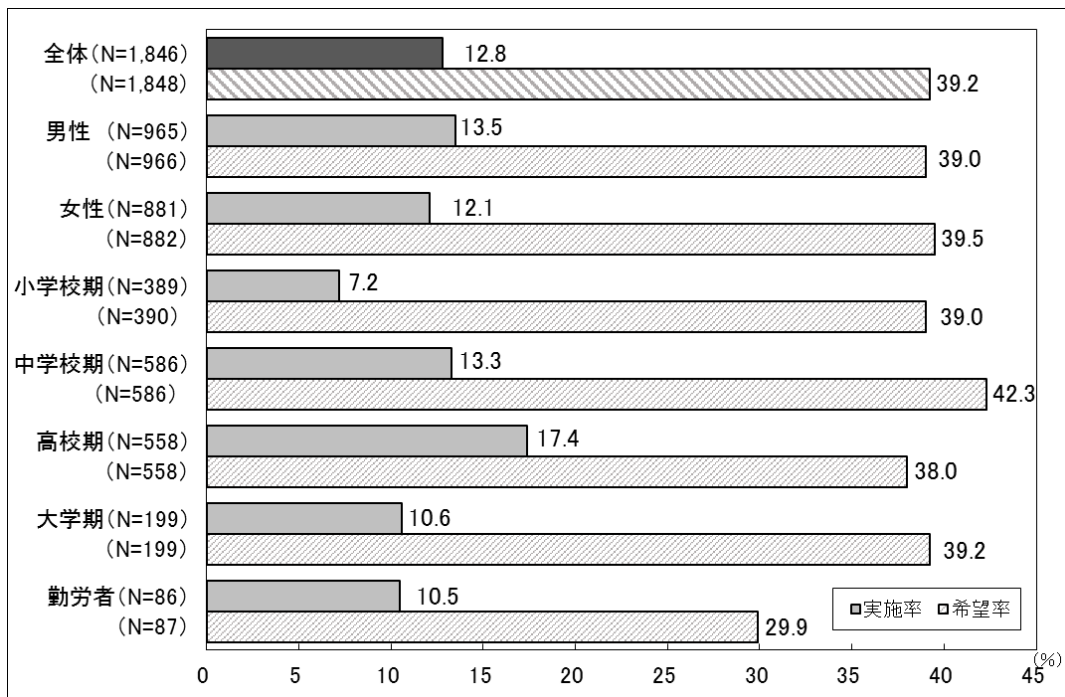
笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」(2005～2013)より作成

(2) 10代のスポーツボランティア実施率及び実施希望率

10代のスポーツボランティア実施率を学校期別に見ると、高校期で17.4%と最も高く、以下、中学校期13.3%、大学期10.6%、勤労者10.5%、小学校期7.2%と続く。2011年と比較すると、17%程度であった中学校期、大学期の実施率に減少が見られ、5%程度であった小学校期、勤労者では増加が見られた(図表1-7)。

今後、スポーツボランティアをやってみたい、又は続けたいと思うかを尋ねたところ、「非常にそう思う」9.3%、「ややそう思う」29.9%、「あまりそう思わない」28.8%、「全くそう思わない」13.6%、「分からない」18.3%であった。実施希望にあたる『そう思う』(「非常にそう思う」+「ややそう思う」)の割合は39.2%と10代の4割がスポーツボランティアの実施を希望していることが分かった。性別では差が見られず、学校期別では中学校期での実施希望が高かった。

図表 1-7 スポーツボランティア実施率及び実施希望率(全体・性別・学校期別)



笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2013より作成

2. 3 ヨーロッパ諸国との比較

(1) 成人のスポーツボランティア実施率の EU28 か国との比較

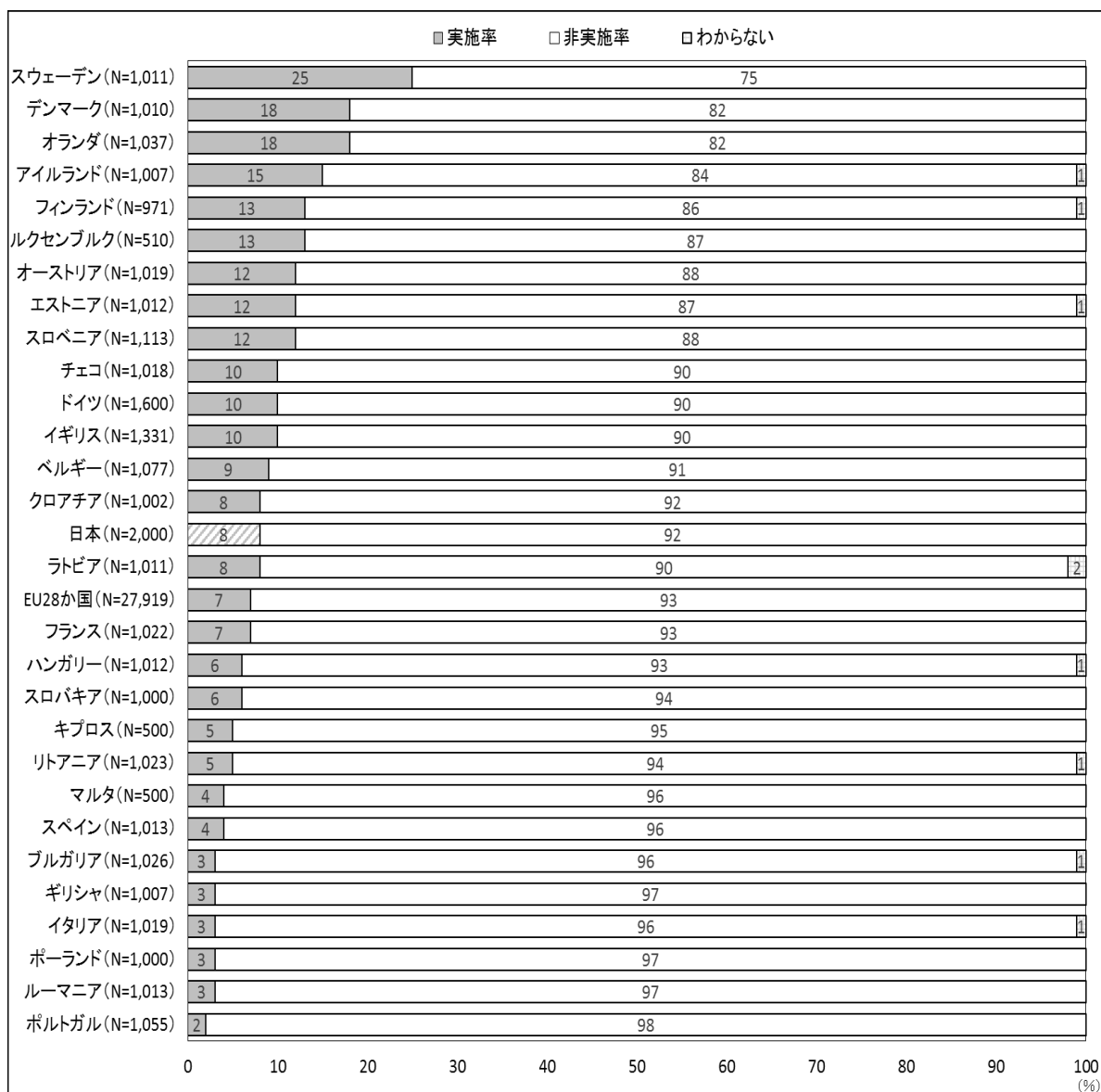
ヨーロッパ委員会(European Commission)が 2013 年にヨーロッパ共同体 28 か国に対して実施した運動・スポーツ活動の実態調査である「Special Eurobarometer 412 SPORT AND PHYSICAL ACTIVITY」を用いて、ヨーロッパ諸国と我が国のスポーツボランティア実施率を比較した(図表 1-8)。ヨーロッパ諸国のデータは 15 歳以上が対象であり、日本のデータは 20 歳以上が対象となっている。

Eurobarometer では、「あなたはスポーツ活動を支援するボランティア活動に関わっていますか」(Do you engage in voluntary work that support sporting activities?)に対する回答のうち、「はい」(Yes)の割合を実施者、「いいえ」(No)の割合を非実施者としている。

「スポーツライフに関する調査」では、「あなたは、過去 1 年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行ったことがありますか」に対する回答を用いた。

スポーツボランティアの実施率は、スウェーデンが 25%で最も高く、次いでデンマークとオランダが 18%、アイルランドが 15%、ルクセンブルクとフィンランドが 13%であった。日本は 8%でクロアチア、ラトビアと並んで 14 位であった。EU28 か国の平均は 7%であり、主要国首脳会議(G8)に参加する国を見ると、ドイツ(10%)、イギリス(10%)、フランス(7%)は我が国と同程度であり、イタリア(3%)は低い。

図表 1-8 EU28 各国と日本のスポーツボランティア実施率



注 1) 調査対象者は Eurobarometer が 15 歳以上、スポーツライフに関する調査が 20 歳以上。

注 2) Eurobarometer では、「あなたはスポーツ活動を支援するボランティア活動に関わっていますか」(Do you engage in voluntary work that support sporting activities?)に対して「はい」(Yes)と回答した者の割合を実施率、「いいえ」(No)と回答した者の割合を非実施率とした。

注 3) 「スポーツライフに関する調査」では、「あなたは過去 1 年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行ったことがありますか」に対する回答率を用いた。

笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014
 European Commission (2014) 「Special Eurobarometer 412 –SPORT AND PHYSICAL ACTIVITY REPORT–」
 より作成

3. 調査結果(調査 2:個人のスポーツボランティア活動に関する実態調査)

3. 1 回答者の属性

(1) 回答者の属性(居住地域・婚姻状況・子供の有無・学歴・職業・年収)

本調査では、スポーツボランティアの実施状況に基づき、「実施者」「無自覚実施者」「非実施者」の3群に、性別と年代別でサンプル数の偏りが出ないようにサンプリングを行った。その他の属性について見ると、居住地域は、全体では「関東地方」が39.3%と最も高く、次いで「近畿地方」19.9%、「中部地方」15.0%であった(図表1-9)。実施状況別に見ると、非実施者について「関東地方」が43.9%と他の地域に比べてやや高かった。

婚姻状況は、全体では「既婚」が63.2%と最も高かった。実施状況別に見ると、実施者、無自覚実施者について、「既婚」が66.8%、67.0%と非実施者よりも10ポイント以上高かった。

子供の有無は、全体では「いる」と回答した者の割合は58.5%であった。実施状況別に見ると、実施者、無自覚実施者について、「いる」と回答した者の割合が62.7%、64.7%であり、婚姻状況同様、非実施者よりも10ポイント以上高かった。

学歴は、全体では「大卒(学部卒)」が43.4%と最も高く、次いで「高卒」25.9%、「短大卒」11.2%であった。実施状況別に見ると、実施者について、「大卒(学部卒)」が49.1%と、無自覚実施者40.8%、非実施者40.4%よりもやや高かった。

職業は、全体では「勤め人」が40.9%と最も高く、次いで「その他」(アルバイトや主夫・主婦など)34.2%、「自営業」10.4%であった。実施状況別に見ると、実施者について「勤め人」が45.7%と、無自覚実施者40.0%、非実施者36.9%よりもやや高かった。

年収は、全体では「400～600万円未満」が25.2%と最も高く、次いで「200～400万円未満」23.5%、「600～800万円未満」17.8%であった。実施状況別に見ると、実施者について、800万円以上(「800～1000万円未満」14.5%+「1000万円以上」15.9%)と回答した者の割合が30.4%となっており、無自覚実施者24.1%、非実施者19.2%よりもやや高かった。

図表 1-9 回答者の属性(居住地域・婚姻状況・子供の有無・学歴・職業・年収) (％)

属性		全体 (N=9,000)	実施者 (N=3,000)	無自覚実施者 (N=3,000)	非実施者 (N=3,000)
【居住地域】	北海道地方	5.1	5.4	4.7	5.3
	東北地方	5.3	5.3	6.3	4.3
	関東地方	39.3	38.0	36.2	43.9
	中部地方	15.0	15.0	17.1	12.9
	近畿地方	19.9	20.6	19.7	19.5
	中国地方	4.7	5.1	4.5	4.5
	四国地方	2.4	2.3	2.7	2.2
	九州・沖縄地方	8.2	8.3	8.9	7.5
【婚姻状況】	未婚	30.9	28.2	26.6	37.8
	既婚	63.2	66.8	67.0	55.7
	離別・死別	6.0	5.0	6.4	6.5
【子供の有無】	いる	58.5	62.7	64.7	48.1
	いない	41.5	37.3	35.3	51.9
【学歴】	中卒	1.7	0.9	1.5	2.6
	高卒	25.9	22.1	27.5	27.9
	高専卒	1.7	1.3	2.0	1.7
	専門卒	10.6	9.5	10.9	11.4
	短大卒	11.2	10.9	12.2	10.6
	大卒(学部卒)	43.4	49.1	40.8	40.4
	大卒(院卒)	5.3	6.1	4.7	5.0
	その他	0.3	0.2	0.4	0.4
【職業】	勤め人	40.9	45.7	40.0	36.9
	自営業	10.4	10.7	10.8	9.8
	学生	4.7	5.0	4.9	4.2
	無職・定年退職	9.8	7.2	8.6	13.7
	その他	34.2	31.4	35.7	35.5
【年収】	200万円未満	8.9	6.5	8.1	12.1
	200～400万円未満	23.5	20.1	23.7	26.7
	400～600万円未満	25.2	24.4	25.5	25.7
	600～800万円未満	17.8	18.6	18.5	16.3
	800～1000万円未満	11.6	14.5	11.6	8.6
	1000万円以上	13.0	15.9	12.5	10.6

3. 2 スポーツボランティア実施者の活動状況

(1) 活動内容

スポーツボランティアの活動内容について、『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別し、具体的な活動内容における実施率と平均年間実施回数(以下、実施回数)を尋ねた(図表 1-10)。

実施率を見ると、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」が 51.4%と最も高く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」32.3%、「スポーツの指導」22.3%であった。

実施回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が 21.1 回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」12.0 回、「スポーツの審判」の 8.0 回であった。

性別に見ると、実施率では、男女共に上位三つの活動内容は、全体の結果と同じであった。男女で比較すると、『日常的な活動』の「スポーツの指導」は男性 27.9%、女性 16.7%、「スポーツの審判」は男性 21.5%、女性 9.4%、『地域のスポーツイベント』における「スポーツの審判」は男性 16.7%、女性 8.3%と、いずれも男性の実施率が高かった。

実施回数についても、男女共に上位三つの活動内容は全体と同じであった。男女で比較すると、『日常的な活動』の「スポーツの指導」(男性 21.1 回、女性 17.9 回)では、男性の実施回数がやや高かった。

年代別に見ると、実施率では、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」は、全ての年代で最も高く、年代が高まるほど、実施率も高まることが分かった。20 歳代では、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が 27.5%と 2 番目に高く、次いで「団体・クラブの運営や世話」26.0%と続いた。一方、30 歳代～60 歳以上では、順位が逆転し、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」が 2 番目に高く、次いで「スポーツの指導」であった。

実施回数について、『日常的な活動』の「スポーツの指導」は、全ての年代で最も高く、特に 50 歳代が 30.3 回と最も高かった。

図表 1-10 実施者のスポーツボランティアの活動内容(複数回答)

スポーツボランティアの内容	実施率(%) (N=3,000)	実施回数(回/年) (N=3,000)
【日常的な活動】		
スポーツの指導	22.3	21.1
スポーツの審判	15.4	8.0
団体・クラブの運営や世話	32.3	12.0
スポーツ施設の管理の手伝い	15.2	5.0
【地域のスポーツイベント】		
スポーツの審判	12.5	4.8
大会・イベントの運営や世話	51.4	2.8
【全国・国際的なスポーツイベント】		
スポーツの審判	3.0	2.9
大会・イベントの運営や世話	11.6	2.0

注 1) 塗りつぶしのある数値は、全ての活動内容の中で実施率・実施回数がそれぞれ最も高い。

注 2) 傍線のある数値は、全ての活動内容の中で実施率・実施回数がそれぞれ 2 番目に高い。

(2) 活動年数

スポーツボランティアの活動年数について、活動内容別に尋ねた(図表 1-11)。『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」について、活動年数が3年未満の者(「1年未満」29.3%+「1年～3年未満」29.9%)は59.2%であった。一方、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」と「スポーツの指導」について、活動年数が3年以上の者(「3年～5年未満」～「20年以上」の合計)は、50.3%、55.2%と5割を超えていた。

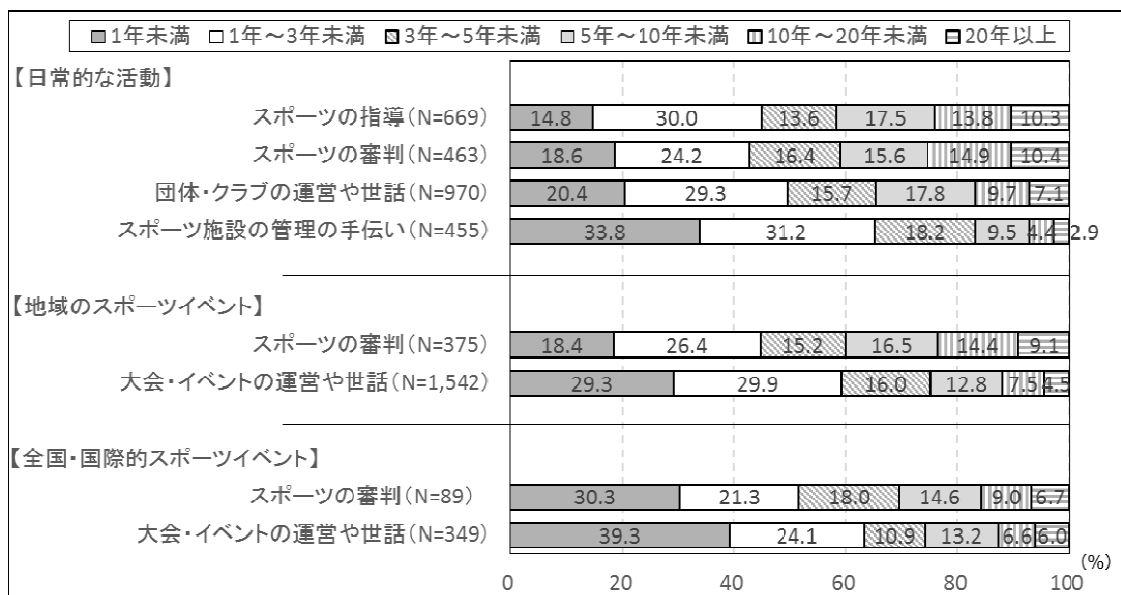
性別に見ると、女性に比べ全体的に男性において活動年数の長い者の割合が高い。特に、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」について、活動年数が3年未満の者(「1年未満」+「1年～3年未満」)は、男性53.2%、女性64.8%と、女性が11.6ポイント高かった。

一方、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」について、活動年数が3年以上の者(「3年～5年未満」～「20年以上」の合計)は、男性55.1%、女性46.2%と、男性が8.9ポイント高く、同様に「スポーツの指導」についても、男性57.5%、女性51.2%と、男性が6.3ポイント高かった。

年代別に見ると、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」について、20歳代、30歳代は「1年未満」が44.8%、38.4%と最も高く、40歳代、50歳代、60歳以上では、「1年～3年未満」が30.3%、26.2%、27.0%と最も高かった。

一方、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」について、20歳代、30歳代、40歳代では、「1年～3年未満」が44.9%、32.3%、32.9%と最も高く、50歳代、60歳以上では「5年～10年未満」が24.9%、21.4%と最も高かった。『日常的な活動』の「スポーツの指導」について、20歳代、30歳代、40歳代では、「1年～3年未満」が42.4%、44.2%、24.6%と最も高く、50歳代では、「10年～20年未満」(26.7%)、60歳以上では、「20年以上」(28.3%)が最も高かった。

図表 1-11 実施者のスポーツボランティアの活動年数



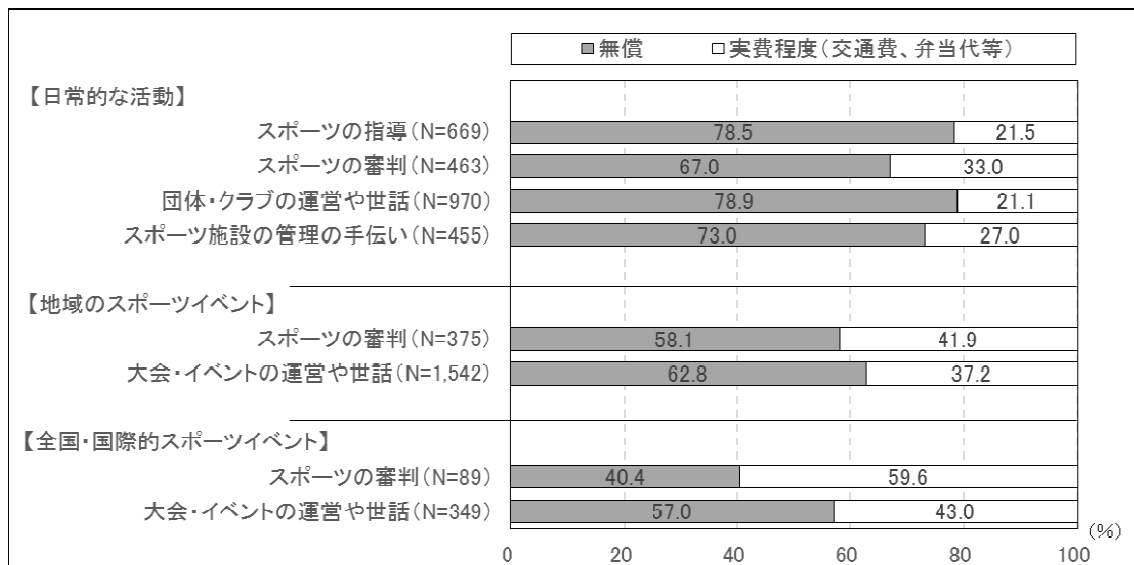
(3) 報酬の有無

スポーツボランティアを実施した際の報酬の有無について、活動内容別に尋ねた(図表 1-12)。『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」は「無償」である割合が 78.9%と最も高く、次いで『日常的な活動』の「スポーツの指導」78.5%、「スポーツ施設の管理や手伝い」73.0%となり、上位三つは全て『日常的な活動』であった。一方、『全国・国際的スポーツイベント』における「スポーツの審判」(40.4%)や「大会・イベントの運営や世話」(57.0%)は、他の活動内容に比べ「無償」の割合が低かった。

性別に見ると、『日常的な活動』の「スポーツの指導」について、「無償」の割合は、男性 81.1%、女性 74.0%であり、男性の方が 7.1 ポイント高かった。同様に、『日常的な活動』の「スポーツ施設の管理の手伝い」について、「無償」の割合は、男性 75.7%、女性 70.5%であり、男性が 5.2 ポイント高かった。その他の活動内容については、男女で 3 ポイント以上の差は見られなかった。

年代別に見ると、『日常的な活動』の「スポーツの指導」と「団体・クラブの運営や世話」について、「無償」の割合は 30 歳代が 86.0%、80.1%と最も高かった。一方、『日常的な活動』の「スポーツ施設の管理の手伝い」について、「無償」の割合は 60 歳以上が 83.3%と最も高かった。

図表 1-12 実施者のスポーツボランティア活動時の報酬の有無



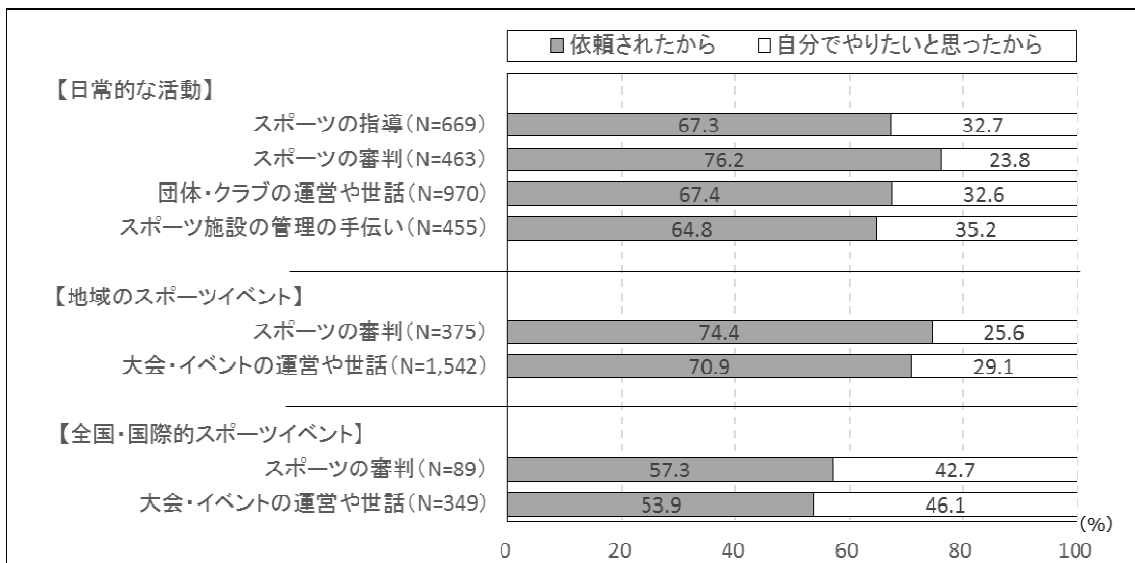
(4) 活動のきっかけ

スポーツボランティア活動のきっかけについて、活動内容別に尋ねた(図表 1-13)。『日常的な活動』の「スポーツの審判」は「依頼されたから」が 76.2%と最も高く、次いで『地域のスポーツイベント』における「スポーツの審判」74.4%、「大会・イベントの運営や世話」70.9%であった。

性別に見ると、『日常的な活動』の「スポーツの審判」について、「依頼されたから」の割合は、男性 77.3%、女性 73.8%であり、男性の方が 3.5 ポイント高かった。『地域のスポーツイベント』における「スポーツの審判」について、「依頼されたから」の割合は、男女 74.4%で同数であった。『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」について、「依頼されたから」の割合は、男性 68.0%、女性 73.6%であり、女性が 5.6 ポイント高かった。『日常的な活動』の「スポーツ施設の管理の手伝い」と『全国・国際的スポーツイベント』における「スポーツの審判」について、それぞれ男女で 8 ポイント以上の差が見られたが、その他の活動内容は男女で 5 ポイント以下の差であった。

年代別に見ると、『日常的な活動』の「スポーツの審判」について、「依頼されたから」の割合は、50 歳代が 83.7%と最も高かった。『地域のスポーツイベント』における「スポーツの審判」について、「依頼されたから」の割合は、40 歳代、50 歳代がそれぞれ 78.9%と最も高かった。『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」について、「依頼されたから」の割合は、40 歳代が 74.7%と最も高かった。

図表 1-13 実施者のスポーツボランティア活動のきっかけ



(5) 活動の重複状況

スポーツボランティアの活動を2種類以上実施しているのは、スポーツボランティア実施者の37.8%であった。最も多いものでは、調査の回答選択肢で示した8種類全てを行っていた。図表1-14に複数のスポーツボランティアの実施状況を活動内容別に示した。

2種類以上の活動を実施している者が、どの活動と重複しているかについて、活動内容別に重複率を見ると、『日常的な活動』の「スポーツの審判」を実施している者は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」47.7%と最も重複率が高かった(図表1-15)。『地域のスポーツイベント』における「スポーツの審判」を実施している者は、『日常的な活動』の「スポーツの審判」の重複率が57.9%であり、『全国・国際的スポーツイベント』における「スポーツの審判」を実施している者は、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」の重複率が73.0%と最も高かった。それ以外の活動内容について、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」や『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」と重複している割合が高かった。

図表 1-14 実施者のスポーツボランティア活動の重複率(全体・活動内容別) (%)

スポーツボランティアの内容	N数	1種	2種	3種	4種	5種	6種	7種	8種
【日常的な活動】									
スポーツの指導	669	36.2	22.6	17.9	10.2	6.3	3.0	2.2	1.6
スポーツの審判	463	20.7	26.8	18.6	13.2	10.4	4.5	3.5	2.4
団体・クラブの運営や世話	970	36.1	30.0	17.2	7.0	4.9	2.0	1.6	1.1
スポーツ施設の管理の手伝い	455	41.1	23.5	20.2	5.5	3.5	2.6	1.5	2.0
【地域のスポーツイベント】									
スポーツの審判	375	13.3	25.1	21.6	16.3	11.5	5.3	4.0	2.9
大会・イベントの運営や世話	1,542	48.8	25.7	13.8	5.3	3.2	1.5	1.0	0.7
【全国・国際的スポーツイベント】									
スポーツの審判	89	7.9	9.0	27.0	12.4	6.7	12.4	13.5	11.2
大会・イベントの運営や世話	349	29.8	14.0	33.2	8.6	3.4	3.7	4.0	3.2

注1) 塗りつぶしのある数値は、1種のみ実施している者について、各活動内容の中で重複率が最も高い。

注2) 傍線のある数値は、1種のみ実施している者について、各活動内容の中で重複率が2番目に高い。

図表 1-15 実施者のスポーツボランティア活動の重複率(活動内容別)

(%)

スポーツボランティアの内容	N数	【日常的な活動】				【地域のスポーツイベント】		【全国・国際的スポーツイベント】	
		スポーツの指導	スポーツの審判	団体・クラブの運営や世話	スポーツ施設の管理の手伝い	スポーツの審判	大会・イベントの運営や世話	スポーツの審判	大会・イベントの運営や世話
【日常的な活動】	スポーツの指導	669	33.0	30.6	8.2	28.8	33.6	8.1	10.5
	スポーツの審判	463	47.7	36.1	11.4	46.9	37.1	13.0	11.4
	団体・クラブの運営や世話	970	21.1		13.4	13.4	49.8	3.8	12.7
	スポーツ施設の管理の手伝い	455	12.1	28.6		9.2	46.4	2.9	17.6
【地域のスポーツイベント】	スポーツの審判	375	51.5	34.7	11.2		45.6	17.3	14.7
	大会・イベントの運営や世話	1,542	14.6	31.3	13.7	11.1		2.9	14.1
【全国・国際的スポーツイベント】	スポーツの審判	89	60.7	41.6	14.6	73.0	49.4		39.3
	大会・イベントの運営や世話	349	20.1	35.2	22.9	15.8	62.2	10.0	

注1) 塗りつぶしのある数値は、各活動内容(横軸)について、重複率が最も高い活動内容(縦軸)の数値。

注2) 傍線のある数値は、各活動内容(横軸)について、重複率が2番目に高い活動内容(縦軸)の数値。

3.3 スポーツボランティア無自覚実施者の実施状況

(1) 活動内容

過去1年間に何らかのスポーツに関わるボランティア活動は行っていないと回答するが、地域のスポーツイベントやスポーツ行事、回答者自身や子供が所属するスポーツ団体やクラブなどでボランティア活動を実施した者(無自覚実施者)の割合を(図表1-16)に示した。

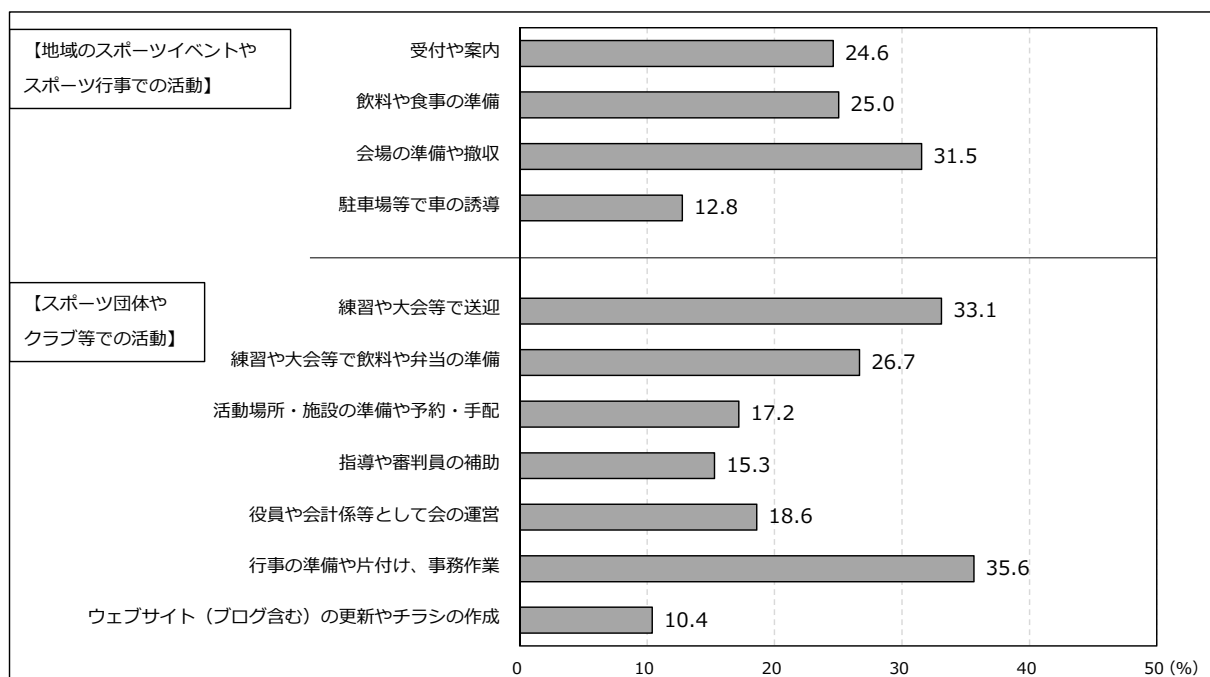
『スポーツ団体やクラブ等での活動』(自身や自身の子供のためだけの活動を除く)における「行事の準備や片付け、事務作業」が35.6%と最も高く、次いで「練習や大会等で送迎」33.1%、『地域のスポーツイベントやスポーツ行事での活動』における「会場の準備や撤収」31.5%と続いた。

性別に見ると、男性では『地域のスポーツイベントやスポーツ行事での活動』における「会場の準備や撤収」が34.7%と最も高く、次いで『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「行事の準備や片付け、事務作業」33.8%、『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「練習や大会等で送迎」31.8%と続いた。

一方、女性では『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「行事の準備や片付け、事務作業」が37.5%と最も高く、次いで『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「練習や大会等で送迎」34.4%、「練習や大会等で飲料や弁当の準備」32.8%と続いた。

『地域のスポーツイベントやスポーツ行事での活動』における「駐車場等での車の誘導」と『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「練習や大会等で飲料や弁当の準備」について、男女差がそれぞれ10ポイント以上見られた。

図表1-16 スポーツボランティアの無自覚実施者の活動内容(複数回答)



年代別に見ると、20 歳代について、『地域のスポーツイベントやスポーツ行事での活動』における「会場の準備や撤収」が 36.0%、60 歳以上について、『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「行事の準備や片付け、事務作業」が 45.3%とそれぞれ最も高かった(図表 1-17)。30 歳代、40 歳代、50 歳代については、『スポーツ団体やクラブ等での活動』における「練習や大会等で送迎」が 37.5%、52.2%、38.8%と最も高かった。

図表 1-17 スポーツボランティアの無自覚実施者の活動内容(年代別:複数回答) (%)

活動内容	20歳代 (N=600)	30歳代 (N=600)	40歳代 (N=600)	50歳代 (N=600)	60歳以上 (N=600)
【地域のスポーツイベントやスポーツ行事での活動】					
受付や案内	31.7	27.2	16.8	21.8	25.5
飲料や食事の準備	30.2	27.7	17.2	23.8	26.3
会場の準備や撤収	36.0	31.0	23.0	31.2	36.5
駐車場等で車の誘導	13.3	14.5	10.0	12.7	13.3
【スポーツ団体やクラブ等での活動】					
練習や大会等で送迎	18.5	37.5	52.2	38.8	18.5
練習や大会等で飲料や弁当の準備	23.2	28.3	32.8	27.8	21.2
活動場所・施設の準備や予約・手配	17.7	17.5	16.8	16.7	17.3
指導や審判員の補助	22.3	18.7	11.7	14.0	9.8
役員や会計係等として会の運営	14.7	18.8	18.2	20.0	21.3
行事の準備や片付け、事務作業	28.7	32.0	33.5	38.7	45.3
ウェブサイトの更新やチラシの作成	15.3	11.5	8.7	6.5	10.0

注 1) 塗りつぶしのある数値は、各年代について、全ての活動内容の中で実施率が最も高い。

注 2) 傍線のある数値は、各年代について、全ての活動内容の中で実施率が 2 番目に高い。

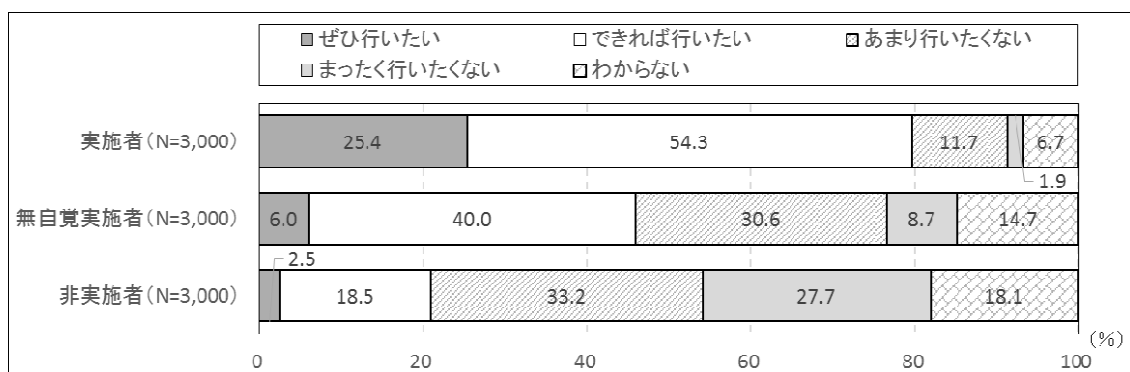
3. 4 スポーツボランティアの実施希望

(1) スポーツボランティアの実施希望率（実施状況別）

一般的なスポーツボランティア（指導、審判、イベント運営など）への参加意向を実施状況別に尋ねた（図表 1-18）。「行いたい」（「ぜひ行いたい」＋「できれば行いたい」と回答した者（以下、一般ボランティア参加希望者）の割合について、実施者 79.6%、無自覚実施者 45.9%、非実施者 21.0%であった。

性別に見ると、全ての実施状況において、男性の一般ボランティア参加希望者の割合は、女性よりも高かった。年代別に見ると、実施者と非実施者において、各年代で大きな差は見られなかったが、無自覚実施者について、20 歳代 50.0%と 50 歳代 39.5%の間では最大 10.5 ポイントの差が見られた。

図表 1-18 スポーツボランティアの実施希望率（実施状況別）



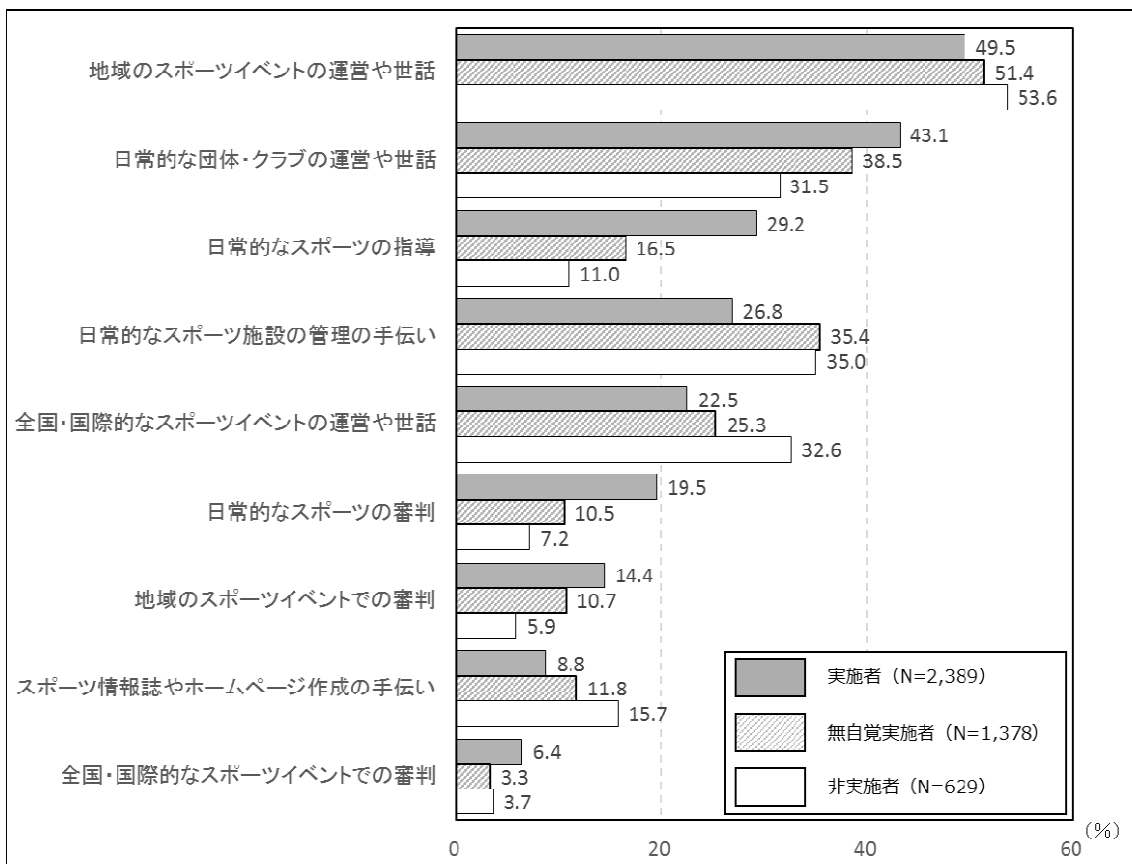
(2) スポーツボランティアの希望活動内容（実施状況別）

今後、一般的なスポーツボランティア活動について、希望する具体的な活動内容を尋ねた（図表 1-19）。実施者では、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が 49.5%と最も高く、次いで「日常的な団体・クラブの運営や世話」43.1%、「日常的なスポーツの指導」29.2%と続いた。

無自覚実施者では、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が 51.4%と最も高く、次いで「日常的な団体・クラブの運営や世話」38.5%、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」35.4%となった。

非実施者では、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が 53.6%と実施者、無自覚実施者同様最も高く、次いで「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」35.0%、「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」32.6%と続いた。

図表 1-19 スポーツボランティアの希望活動内容(実施状況別:複数回答)



3. 5 スポーツボランティア実施の問題・課題

(1) スポーツボランティア実施の問題・課題（実施状況別）

スポーツボランティア活動を実施する(始める)上で、問題・課題になっていることを自由記述で三つまで尋ねたところ、9,000人のうち3,161人から回答を得た(図表 1-20)。内訳としては、実施者 1,653人、無自覚実施者 1,046人、非実施者 462人であった。記述内容を整理し、類似回答を大項目、中項目、小項目にそれぞれまとめた。その結果、大項目 8種類、中項目 20種類、小項目 51種類の課題を確認することができた。

全体では、小項目 51種類の中で「活動のための時間が取れない」が 13.1%と最も高く、次いで「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」12.7%、「金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)」10.5%、「参加者が少ない・人員の確保が困難」と「仕事・学業との両立・調整が難しい」が同順位で 9.4%と続いた。

実施者では、「金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)」が 13.2%と最も高く、次いで「参加者が少ない・人員の確保が困難」13.0%、「活動のための時間が取れない」11.0%、「仕事・学業との両立・調整が難しい」7.9%、「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」7.3%と続く。

無自覚実施者では、「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」が 14.5%と最も高く、次いで「活動のための時間が取れない」13.4%、「仕事・学業との両立・調整が難しい」11.1%、「日程の都合が合わない」10.9%、「金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)」8.8%と続いた。

非実施者では、「活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい」が 28.4%と最も高く、次いで「活動のための時間が取れない」19.7%、「専門知識・ルールの理解・経験が必要である」13.4%、「仕事・学業との両立・調整が難しい」10.8%、「肉体的負担が大きい」6.9%の順となった。

図表 1-20 スポーツボランティア実施の問題・課題(実施状況別:複数回答)

(%)

大項目	中項目	NO.	小項目	全体 (n=3,161)	実施者 (n=1,653)	無自覚実施者 (n=1,046)	非実施者 (n=462)
募集	情報発信	1	活動内容の情報が少ない、募集窓口が分かりにくい	12.7 ②	7.3 ⑤	14.5 ①	28.4 ①
		2	活動数が地域により偏りがある・近所で活動がない	0.7	0.5	1.0	0.9
	活動内容	3	地域に合った活動の普及と実施が必要	0.2	0.2	0.3	0.0
		4	地域の子供が減少している	1.0	1.4	0.9	0.2
		5	既にあるコミュニティに入りづらい	1.5	1.3	1.5	1.9
		6	始めるきっかけがない	3.1	1.9	3.5	6.7
	きっかけ	7	活動が認知されていない	0.4	0.7	0.2	0.2
		8	参加者が少ない・人員の確保が困難	9.4 ④	13.0 ②	6.9	1.9
		9	ドタキャンや人員変動が多く、人員把握が困難	0.7	0.8	0.9	0.0
		10	一度入るとキャンセルや脱退しやすい(継続できるか不安)	0.9	0.7	1.1	1.3
人員確保	11	事前予約での募集制度や抽選制度	0.1	0.2	0.0	0.0	
	12	メンバーの高齢化・後継者が不足している	2.7	3.6	2.1	0.4	
	13	年齢など参加条件に制約がある	0.2	0.1	0.3	0.4	
	14	活動場所が遠い、活動場所までの移動手段がない・交通の便が悪い	2.6	2.4	2.8	2.8	
物理的	15	報酬がない・少ない	2.2	3.7	0.6	0.2	
	16	金銭的負担が大きい(交通費・運営費など)	10.5 ③	13.2 ①	8.8 ⑤	4.8	
金銭的	17	肉体的負担が大きい	4.2	3.4	4.3	6.9 ⑤	
	18	自分自身の健康や体力の問題	2.4	2.5	2.5	1.9	
体力的	19	実施の有無が天候に左右される	0.5	0.5	0.7	0.0	
	20	活動のための時間が取れない	13.1 ①	11.0 ③	13.4 ②	19.7 ②	
時間的	21	日程の都合が合わない	7.5	5.8	10.9 ④	6.1	
	22	拘束時間が長い	1.8	1.9	1.9	0.9	
	23	活動に参加すると休日がなくなるので、参加に踏みきれない	0.6	0.8	0.2	0.6	
気分的	24	気持ちの余裕がない	0.3	0.1	0.4	0.4	

		25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	7.9	④	9.4	④	11.1	③	10.8	④						
周囲の理解	両立		仕事・学業との両立・調整が難しい																																							
			家庭との両立・調整が難しい																																							
	理解		自分の子供が小さいため預けられないと参加できない																																							
対人関係	-		家族からの理解が必要																																							
			スタッフ内での人間関係が難しい(上下関係、意見の調整など)																																							
			保護者との関係が難しい																																							
スキル	知識技術		コミュニケーション能力が必要である(英語、手話含め)																																							
			専門知識・ルールの理解・経験が必要である																																							
	指導力		自分自身の技術の維持・向上が必要である																																							
意識	人材育成		自分にできる範囲で参加できれば良い																																							
			指導力のレベルや方向性に格差がある、適切な指導方法のフォーマットがない																																							
			審判の判定にばらつきがある																																							
運営体制	-		スポーツをみながら楽しめる工夫が必要																																							
			自分が役に立つか、自分のスキル不足に不安を感じる																																							
			ボランティア参加者への指導が不足している																																							
理解・連携	-		ボランティアとしての心構えの欠如、メンバー間の意識格差																																							
			成果・意識が見いだせず、やりがいを感じられない																																							
			多数をとめる運営体制・リーダーシップ																																							
場所	運営		幹部の計画性が乏しい・情報共有や話し合いが不十分																																							
			運営していく規則やルールが必要(個人情報管理、屋敷手配含め)																																							
			連絡体制が整っていない																																							
責任	場所		ごみや清掃の問題																																							
			施設や環境の問題																																							
			安全面・ケガの保証・保険																																							
理解・連携	責任		トラブル時の責任の所在																																							
			地域行政・民間企業からの理解、連携が必要																																							
			選手や地域住民のボランティアに対する理解が必要																																							
		選手や地域住民のボランティアに対する理解が必要																																								

注)塗りつぶしのある数値は、全体や実施状況別についてそれぞれ上位五つの数値であり、それぞれ順位も記載した。

大項目で分類したスポーツボランティアに関する課題について、実施状況別に調べた(図表 1-21)。全
てにおいて、「個人的負担」の割合が最も高く、次いで「募集」の割合が高かった。3位について実施状況
別に見ると、実施者は「運営体制」22.5%、無自覚実施者は「周囲の理解」18.0%、非実施者は「スキル」
23.2%であった。

年代別に見ると、20歳代は「スキル」15.9%、30歳代、40歳代は「周囲の理解」14.4%、15.8%、50歳代、
60歳以上は「運営体制」14.1%、16.2%であった。

職業別に見ると、勤め人は「周囲の理解」13.8%、自営業、無職・定年退職、その他は「運営体制」
13.3%、17.2%、13.0%、学生は「スキル」21.7%であった。

年収別に見ると、600万円未満の者は「運営体制」(「200万円未満」14.9%、「200～400万円未満」
13.6%、「400～600万円未満」13.4%)、600万円以上の者は「周囲の理解」(「600～800万円未満」
13.2%、「800～1000万円未満」13.2%、「1000万円以上」11.6%)であった。

図表 1-21 スポーツボランティア実施の問題・課題の分類
(実施状況別:複数回答)

(%)

大項目	実施者 (N=1,653)	無自覚実施者 (N=1,046)	非実施者 (N=462)
募集	31.8	33.2	42.4
個人的負担	45.4	46.4	44.4
周囲の理解	13.2	18.0	19.0
対人関係	7.2	6.6	1.9
スキル	12.3	14.5	23.2
意識	5.1	2.8	2.4
運営体制	22.5	15.9	6.3
理解連携	2.8	1.9	0.0

注 1) 塗りつぶしのある数値は、上位 1 番目から 3 番目までの課題の数値。

注 2) 傍線のある数値は、3 番目に高い課題の数値。

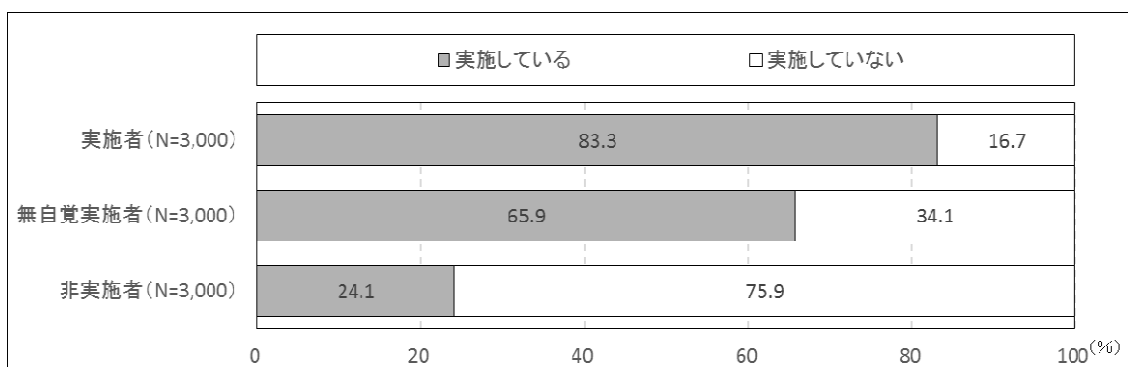
3. 6 スポーツ以外のボランティア活動の実施状況

(1) スポーツ以外のボランティアの実施率（実施状況別）

スポーツ以外のボランティア活動の実施率を実施状況別に見ると、全体では実施者が 83.3%と最も高く、スポーツボランティアを実施している者は、その他の社会活動にも積極的に参加していることが分かった（図表 1-22）。性別に見ると、全ての実施状況について、女性の実施率が男性よりも高かった。

年代別に見ると、全ての実施状況について、60 歳以上が最も高く、特に無自覚実施者では、最も実施率の低い 20 歳代 59.3%と比べると 16.9 ポイントの差が見られた。

図表 1-22 スポーツ以外のボランティア活動の実施率（実施状況別：複数回答）

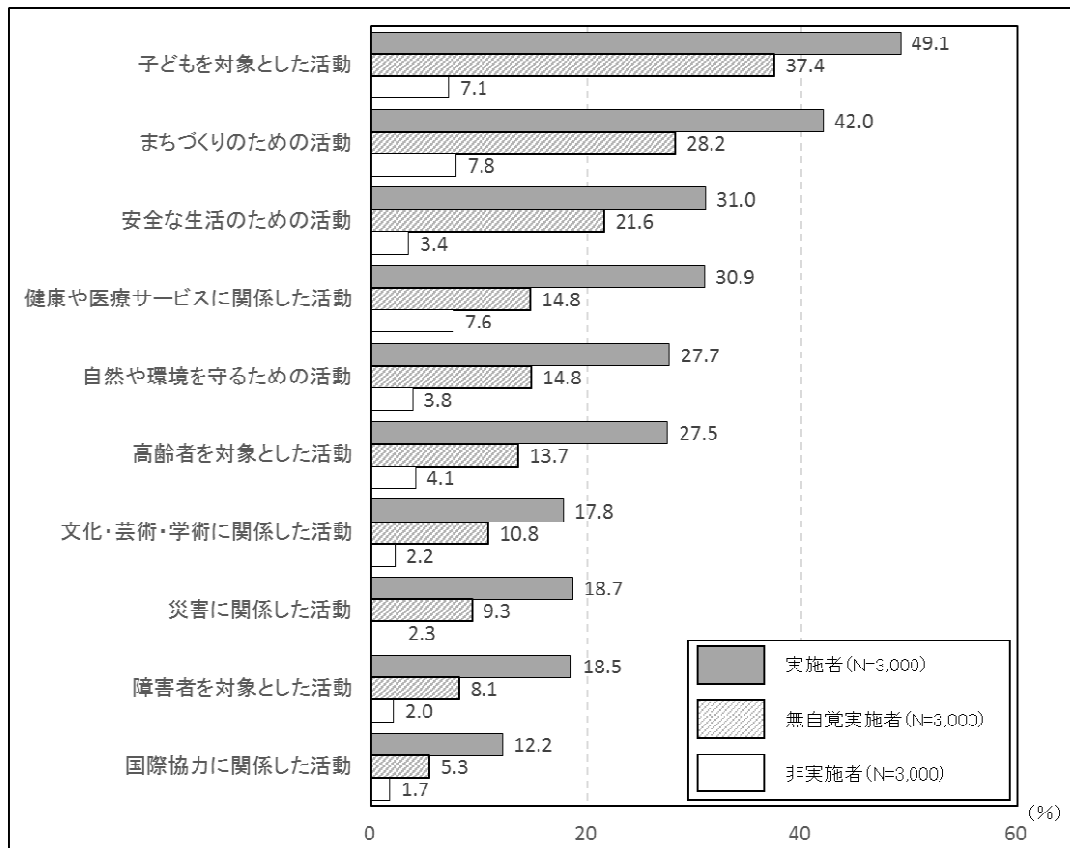


(2) スポーツ以外のボランティア活動の内容（実施状況別）

スポーツ以外のボランティア活動の内容を実施状況別に見ると、実施者、無自覚実施者では「子供を対象とした活動」が49.1%、37.4%とそれぞれ最も高く、次いで「まちづくりのための活動」が42.0%、28.2%、「安全な生活のための活動」が31.0%、21.6%と続いた（図表 1-23）。

一方、非実施者では「まちづくりのための活動」が7.8%と最も高く、次いで「健康や医療サービスに関連した活動」7.6%、「子供を対象とした活動」7.1%と続いた。

図表 1-23 スポーツ以外のボランティア活動の内容(実施状況別:複数回答)

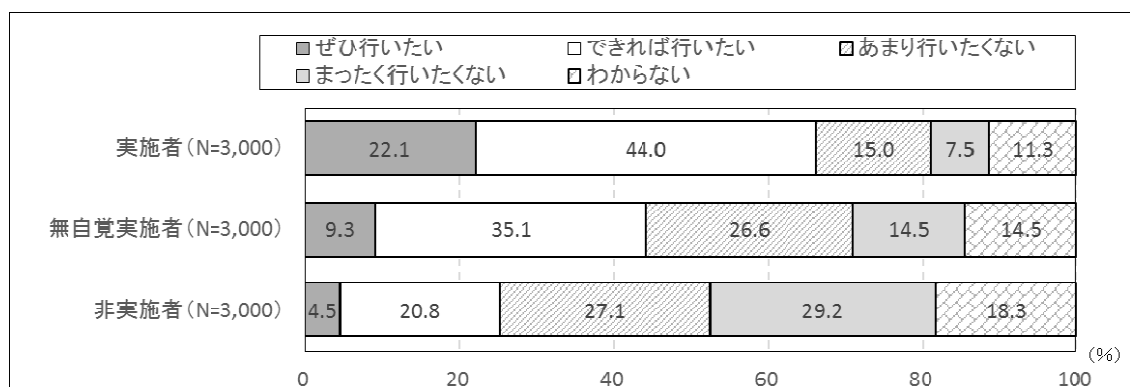


3. 7 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加意向

(1) 参加意向（実施状況別）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるボランティア活動への参加意向を実施状況別に見た。「行きたい」（「ぜひ行きたい」＋「できれば行きたい」と回答した者（以下、2020年ボランティア参加希望者）の割合について、実施者66.1%、無自覚実施者44.4%、非実施者が25.3%であった（図表1-24）。実施者、無自覚実施者、非実施者の順で2020年ボランティア参加希望者の割合が高かった。

図表 1-24 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加意向（実施状況別）



参加意向の割合が高い実施者における属性を見ると、性別では男性 67.5%、女性 64.9%と 2.6 ポイント差であり、あまり男女の差は見られない(図表 1-25)。

年代別に見ると、20 歳代が 75.5%と最も高く、60 歳以上の 52.7%と比較すると、22.8 ポイント高いことが分かる。30 歳代から 50 歳代は、60%台の参加意向を示していた。

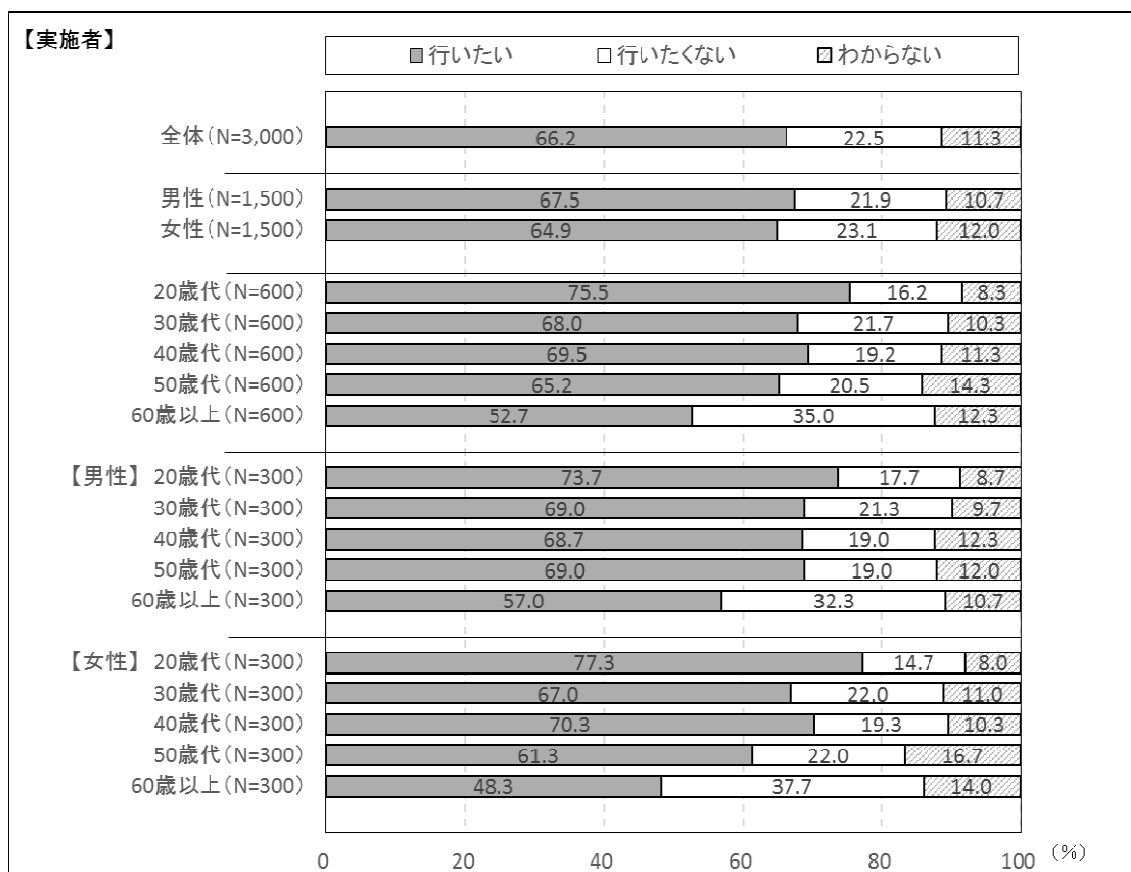
性・年代別に見ると、女性の 20 歳代が 77.3%と最も高く、次いで 20 歳代の男性 73.7%、40 歳代の女性 70.3%、30 歳代・50 歳代の男性 69.0%と続く。

居住地別に見ると、「関東地方」が 73.2%と 7 割を超えているが、「東北地方」67.3%、「北海道地方」66.5%、他の地方も 6 割の者が参加意向を示しており、現在ボランティアを実施している者は、居住地に関係なく参加の意向を示す人の割合が一定程度いることが示された(図表 1-26)。

学歴別や年収別に見ると、学歴や年収が高くなるほど、2020 年ボランティア参加希望者の割合が高くなっている。

職業別では、「勤め人」が 72.4%と最も高く、次いで「学生」70.0%、「自営業」63.0%と続く。一方、「無職・定年退職」者は 47.4%と最も低かった。

**図表 1-25 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加意向
(実施者：性別・年代別・性×年代別)**



図表 1-26 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの参加意向
(実施者:居住地域・婚姻状況・子供の有無・学歴・職業・年収)

